

甲府市総合市民会館自主事業

ブリランテ・マンドリーノ

かがやきのコンサート



2002年12月8日(日)午後1:30 開場

午後2:00 開演

甲府市総合市民会館 芸術ホール

主催：ブリランテ・マンドリーノ 共催：甲府市教育委員会

後援：山梨県マンドリン音楽連盟・山梨県生涯学習推進センター・

NHK甲府放送局・山梨日日新聞社・山梨放送・

テレビ山梨・日本ネットワークサービス甲府CATV局

ごあいさつ

ブリランテ・マンドリーノ代表 常盤 由美子

本日は、ブリランテ・マンドリーノ「かがやきのコンサート」にご来場頂きありがとうございます。

学生時代の音楽仲間がおよそ30年を経て楽器を手に集い“音楽活動を通して社会に貢献できる仲間づくり”をめざしブリランテ・マンドリーノを結成して2年余りになりました。練習成果を各施設の慰問などを通じて聴いて頂いてまいりましたが“コンサートを開催してみたい”と部員の声が一つになってからはさらに厳しい指導のもと、本日、かがやきのコンサートの開催が実現できましたことは、部員一同大きな喜びで一杯です。

本日のプログラムは演奏者と会場の皆様が一緒に楽しめる新しい形にしたいと、多彩な楽器と合唱と多くの賛助出演の皆さんにご協力を頂き、このステージで精一杯、輝かたいと思っております。

なお、総合市民会館の自主事業として、甲府市教育委員会の共催と山梨県マンドリン音楽連盟、ほか各報道機関様の後援も頂きました。多くの方々のご支援、ご厚情に心より感謝申し上げます。

かがやきのコンサートをどうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。

演奏会によせて

山梨県マンドリン音楽連盟会長 堀口 昭

ブリランテ・マンドリーノの記念すべき演奏会が華麗(ブリランテ)に開催されることを心からお祝い申し上げます。

今日という日を迎え、団員の皆様の感慨もひとしおのことと存じます。結成以来ここに至るまでにはご苦労も多かったろうと思いますが、それもこのステージで報われるでしょう。同時にその陰にはご家族のご理解とご協力があったことを忘れてはならないと思います。

さて、日本にマンドリンが渡来てまだ100年そこですが、近年めざましい発展を遂げ、マンドリン人口は増加の一途を辿っております。しかし本県では学校におけるマンドリンクラブ活動(一時期全盛時代もありましたが)を続けているのはほんの数校になってしまいました。その全盛期に、甲府二高(現甲府西高)英和短大(現英和大学)県立女子短大、でそれぞれ活躍したOGの皆さん、子育てから解放され昔懐かしいマンドリンを楽しもうと集ってきたのがこのブリランテ・マンドリーノですね。我が「県マンドリン音楽連盟」には唯一女性のみのサークルとして、新しい風を吹き込んでくれています。

本日は幅広いジャンルの曲が盛り沢山で非常に楽しみです。また、マンドリンオリジナル曲には特に期待しています。程よい力強さを備えた指揮者、高保女史の小気味よい感性を中心とした気品の高い演奏をじっくり聴かせていただきます。

最後に、コンサートのご成功と皆様のますますのご精進、ご活躍ならびに貴マンドリーノのご発展を心から祈念いたしましてお祝いのことばと致します。

プログラム

第1部

序曲「魅惑島」 Joh.B.Kok 作曲

荒城の月幻想曲 服部 正 作曲

ハイムライゼ(帰郷の旅) コンラッド・ヴェルキ 作曲

第2部

鉄腕アトム 高井達雄 作曲 山本雅三 編曲

天使のらくがき ポトムキン 作曲 河野直文 編曲

シェルプールの雨傘 ミシェル・ルグラン 作曲 河野直文 編曲

ティコティコ Z. Abrew 作曲 松本 譲 編曲

異邦人 久保田早紀 作曲 編曲者不詳

ヘイ・ジュード J・レノン、P・マッカートニ 作曲 河野直文 編曲

第3部

パラフレーズ「赤い靴」 石渡 勝 作曲

組曲 アイヌの印象 清水保雄 作曲

第一楽章 「幸せなアイヌコタン」

第二楽章 「若き乙女の物語」

第三楽章 「神々への祭り」

曲目の解説

■序曲「魅惑島」

ヨハン パブデスタ コック 作曲

1889年アムスタルダムに生まれたコックは、始めはバイオリンの教育を受け独奏者として名声を得たが、余技にマンドリンやギターも手がけていた。そのころ結成されたオランダのマンドリンギター連盟の作曲コンクールに応募して見事入選し、後にオランダのマンドリン界の第一人者となった。

この曲は、初期の代表作のひとつである。「魅惑島」とは、アムステルダムの沖合いにある素晴らしい風景のモンケル島をイメージして作られたと思われる。

■荒城の月幻想曲

服部 正 作曲

滝 廉太郎の代表作「荒城の月」をモチーフに、マンドリンのために1955年作曲した。曲は前奏の後、テーマが演奏されこれが変奏されて展開してゆく。

マンドリンの美しさ、低音楽器のダイナミックさを生かしたこの曲は、演奏会の定番としてよく演奏されている。

■Die HEIMREISE (帰郷の旅)

コンラッド・ヴェルキ 作曲

ドイツ生まれの作曲家で28歳の時の作品である。

若者が幼年時代の思い出に浸りながら故郷へと急ぐ気持ち。やつと故郷へたどり着いた喜び、友人や知人に会えた喜びを、美しいメロディーにのせて雄大に表現している。旅立つ前の憂鬱な心を思わせるどこか孤独な影のさす沈んだイントロから始まり、勇んで旅立つ軽快なリズムや、故郷が目に映ったとき彼の心に焼きついていた自然が昔のままそこに広がる。やさしく包みこんでくれるようなメロディーなど、若者の素朴な感情がよく表現されている。

■パラフレーズ「赤い靴」

石渡 勝 作曲

作曲者の石渡勝氏は、横須賀市を中心にマンドリン音楽の編曲及び作曲で活躍している。「赤い靴はいてた女の子...」という野口雨情作詞、本居長世(もとおりながよ)作曲の童謡を原曲に、マンドリン合奏のために書き下ろされたオリジナルである。

■組曲「アイヌの印象」

清水 保雄 作曲

広大で苛酷な自然と幸せな人々の営為、ロマンス、祭典は美しく馴染みやすいメロディーで綴られた組曲である。清水保雄氏が昭和41年夏、北海道に旅行された、その印象まとめられたものである。

* 第一楽章「幸せなアイヌコタン」

アイヌコタンは村の名、幸せで平和な人々の営みがそこにある。炉ばたでの長老の話、若い男女の語らいが、楽しい時の過ぎゆくのを忘れさせる。

* 第二楽章「若き乙女の物語」

朝陽の昇る頃、湖の深い霧はひき始め、湖上の小舟に若い男女の遊んでいるのを見出す。美しいビカリメノコの歌は突然の戦いに乱され、勇敢な恋人は帰らぬ人となる。

* 第三楽章「神々への祭り」

赤々と燃える火を囲み、聖なる熊祭り。盛大なる踊りと懸け声は、厳しい自然を何千年も生き抜いたアイヌ村人の「生」の証ではあるまい。

第一楽章のマンドリン・ソロのメロディーが再び最後に緩徐な形で現われると、この組曲がひとつの叙事詩であることに私達は気づく。



出 演 者

指 挥 高保 洋子 河野 直文(山梨大 MC. OB)
コンサートミストレス 山田 玲子
1stマンドリン 山田 玲子 根津 きよみ 新藤はる子 宮川 良美 阿部美智子
⑤ 保坂 俊子 澤登 温子 桑野 佳枝 阿部 信彦(山梨大 MC. OB)
2ndマンドリン ⑤ 吉田 直美 山崎江里子 越水 和子 内藤 栄子 小林 千鶴
窪田 善枝 星野 久香
マンドラ ⑤ 小澤 和子 赤池 真澄 斎藤 純子 藤垣美和子 飯島 典子
高保 洋子
リュート ⑤ 佐野 禮子
マンドロンチェロ 赤池 真澄 河野 直文
ギター ⑤ 深澤加代子 常盤由美子 長谷部道子 山本 富子 松村 敦子
コントラバス ⑤ 田中 昭子 粕谷 幸久(横須賀マンドリンアンサンブル)
ピアノ 千野恵美香
電子オルガン 山本 恒子
フルート 須田 君子 平本 玲子(甲府市民吹奏楽団)
クラリネット 渡辺 信江 雨宮 孝子(甲府市民吹奏楽団)
オーボエ 水上 和美(山梨市民吹奏楽団)
ファゴット 横山 敏(甲府南SMS)
パーカッション 保坂 幸雄 渡辺 友子(甲府市民吹奏楽団)
佐々木謙一(アンサンブル・パストラーレ)
合唱 五味 香織 石丸 茂 磯井 和棋 真貝 和人
真貝 阿斗 松谷 順 藤森 淳 時田 和彦
(アンサンブル・カーノ)
司会 神座 有紀

活動のあゆみ

| | | |
|-------|-------------------------|------------|
| 2001年 | 2月 ブリランテ・マンドリーノ結成 | |
| | 3月 訪問演奏会 | 昭寿荘 |
| | 4月 甲府西高同窓会 | アピオ |
| | 5月 産学連携設立総会 | 山梨大学 |
| | 6月 甲府ロータリークラブ例会 | 岡島ローヤル会館 |
| | 8月 訪問演奏会 | 福寿荘 |
| | 8月 夏の合宿 | 白州町名水公園べるが |
| | 9月 山梨県芸術祭(県マンドリン音楽連盟合同) | 県民文化ホール |
| | 10月 QC 学会 | 山梨大学 |
| | 11月 竜王町敬老会 | 中八幡 |
| | 11月 甲府市スキー連盟 | 甲府市総合市民会館 |
| 2002年 | 1月 ワイズメンズクラブ | 談露館 |
| | 1月 冬の合宿 | 石和・かんぽの宿 |
| | 3月 訪問演奏会 | 桜井寮・春風寮 |
| | 5月 訪問演奏会 | 市立甲府病院 |
| | 8月 夏の合宿 | 石和・かんぽの宿 |
| | 9月 甲府一高同窓会 | 富士屋ホテル |
| | 11月 強化合宿 | 勤労青年センター他 |
| | 11月 甲府市民文化祭 | 甲府市総合市民会館 |

♪ 鉄腕アトム

空を越えて ラララ 星の彼方
行くぞアトム ジェットのかぎり
こころやさし ラララ 科学の子
十万馬力だ 鉄腕アトム

♪ 異邦人

子供達が空に向かい両手をひろげ
鳥や雲や夢までも つかもうとしている
その姿は昨日までの なにも知らない私
あなたにこの指が届くと信じていた

空と大地が ふれあう彼方
過去からの旅人を呼んでいる道
あなたにとって私 ただの通りすがり
ちょっと振り向いてみただけの 異邦人

